

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

ヒーローは吉祥文!?

京都にあつて中国の影響を色濃く残す黄檗宗の大本山万福寺に変わった意匠の扉を持つお堂があるのをご存じですか? え? あのアメリカン・ヒーロー!?!と、驚かれる方も多いかもしれません。

このお堂は売茶堂といい、煎茶道の祖といわれる売茶翁高遊外がお祀りされています。売茶翁は万福寺僧としては月海元照といいました。僧侶の身で儒教にも通じ、茶具を荷って市井に入り、門前で



万福寺 売茶堂の扉



紅彩蓋碗の蝙蝠文様

一服一銭の茶を振る舞って評判になりました。

コウモリはイソップ物語などで鳥でもなく獣でもない中途半端な生き物として描かれ、日本でもあまり好まれません。売茶翁は仏者でも儒者でもあり、聖でも俗人でもある我が身をコウモリになぞらえていたことからお堂の意匠に使われたものですが、このコウモリ、実は中国では大変な吉祥のシンボルなのです。漢字では蝙蝠と書きます。この「蝠」が「福」と同じ発音であることから福寿を祝う際には蝙蝠の文様が

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

とリわけ好まれました。そういえば昔のアニメヒーローだった「黄金バット」は、「ゴールドンバット」という煙草から着想されたと言われていますが、この煙草は本来中国向けの輸出品としてつくられたものでした。長崎県にある黄檗宗の寺院には今でもコウモリが使われた扉がありますし、長崎カステラのロゴにも使われています。ところ変われば品変わる。それぞれの文化の違いを理解し、今年一年皆様の元

へも福が舞い込みますように。因みにあのアメリカン・ヒーローは吉祥ではなく、主人公が子供の頃に感じた恐怖の対象としてコウモリが使われていますので、お間違いない。(京都・清遊の会 堤勇二)



ゴールデンバット パッケージ (昭和14年発売分)



長崎 崇福寺 第一峰門

